



第35号

題字・西春彦 著

○発行所 川辺高等学校東京同窓会
○発行日 平成23年10月29日

○編集発行人 鯉坂 悟郎
○印刷所 株式会社 盈進社 ☎03(3262)3471



第35回 総会

次なる飛躍に向けて 再スタート!

第35回東京同窓会総会は平成23年6月25日(土)如水会館で、前野政美本部同窓会会長、宮園秀昭校長、黒川久子先生、蔵前勇教諭、宇都和久本部同窓会副会長のほか薩南工業高校、吹上高校の各同窓会、川辺、知覧、南さつま、加世田の各関東ふ



なぎなた演武「直心影流」

るさと会からの来賓をお迎えし、総勢188名の出席のもと開催されました。

恒例の特別講演は、横浜市立大学付属病院でご活躍中の下之菌ルリ子氏(51年卒)に「生けるを支える」と題して、患者が病を克服して社会復帰される様子や感染症予防など健康管理についてお話しいただき、大変好評でした。

総会・懇親会では恒例により鯉坂悟郎会長、前野本部同窓会会長、宮園校長先生にご挨拶いただき、百周年記念行事を無事終えて新たな一歩を踏み出した母校の現況説明のほか、更なる活性化に向けて、同窓会母校が一体となって引き続き努力しようではないかとお話をいただきました。

司会は43年卒担当年度幹事椎原和幸氏、高田和明氏によって進められ、ご高齢ながら凛とした黒川先生と大橋孝子氏(43年卒)によるなぎなた

演武の「直心影流」後、札幌から遠来の篠田徹男氏(25年卒)の乾杯の音頭により懇談に入りました。つけあげ、刺身こんにやくなどの



前橋竹之氏「万歳三唱」

料理に舌鼓を打ちながら焼酎で氣勢を上げ、抽選会(景品は焼酎、水溜食品の漬物、鳩サブレ)で宴はたけなわとなりました。

今年は(株)盈進社下園典子社長のご好意により、故当会名誉会長で元農政審会長、東大名誉教授川野重任氏の沢山の著書が希望者に寄贈されて喜ばれました。

校歌斉唱ののち、前橋竹之氏(25年卒)ご発声による万歳三唱、大平政弘副会長による来年の再会を期しての閉会の挨拶であったという間の3時間半の幕を閉じました。

来年の総会は6月2日(土)、新宿ワシントンホテルで行われる予定です。皆さん参加して楽しく語り合いましょ!

昭和36年卒 南谷亘英

来年の36回総会

平成24年6月2日(土) 新宿ワシントンホテルで開催します。

年度幹事は、44年卒・54年卒・平成4年卒の方々です。是非お友達をお誘いあわせの上ご参会を!!



母校活性化のために

東京同窓会会長
昭和32年卒 鯨坂 悟郎

東京同窓会会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年6月の第35回総会も約200名のご出席を得て盛大に開催することが出来ました。誠に同慶の至りでありませぬ。ご出席頂きましたご来賓、会員の皆様を始めとして企画運営に当たった役員や年度幹事の皆様に厚くお礼申し上げます。

ところで、この一年間本当にいろいろな事がありました。3月の東日本大震災は未曾有の大震災となりました。被災地の一日も早い復旧・復興を願いながら、被災者の皆様にお見舞いとお悔やみを申し上げます。東京同窓会にとりましてでも忘れられない年となりました。永年に亘り本会の存続発展に多大なる貢献を頂いた名誉会長の川野重任氏、前会長の本田雄郎氏、陵寿会世話役の大倉野貞俊氏が逝去されました。ここに永年のご功績に感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

昨年11月には神戈陵の下、母校創立百十周年記念式典が厳粛にとり行

われ、永い歴史と伝統に遥かに思いをはせながら、今後について誓いを新たにしたいところであります。

全館空調化のための記念募金運動に對しては、皆様の広範なご協力を頂きました。東京同窓会の達成率は62%でありましたが、金額もさることながら、応募人数の多さにおいて十分に評価できる結果となりました。皆様の多大なご協力に心からお礼を申し上げます。

母校の現状は益々厳しくなっております。今春の入学者は4クラス・160名定員に対して123名であり、何とかぎりぎり4クラス編成を維持出来ました。3クラスへの転落だけは何としても阻止しなければなりません。東京同窓会としては、今後とも母校や本部同窓会と連携しながら物心両面で母校活性化のために貢献して行きたいと考えております。母校存続あつての同窓会でありませぬ。皆様方と力を合わせて母校の難局を突破して参りませぬ。

最後に会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



会長就任の挨拶

本部同窓会会長 大坪 憲市

川辺高等学校東京同窓会の皆様には、永年に亘り母校を思い母校の為に多大なるご尽力をいただいておりますことに、心より敬意を表します。昨年は創立百十周年の節目の年に東京同窓会の皆様方から多大なるご支援・ご協力をいただき誠に有難く厚くお礼を申し上げます。

さて、平成23年8月6日の川辺高等学校同窓会総会に於いて前野政美会長に代わり同窓会会長を仰せつかりました第18回(昭和41年卒)卒の大坪憲市と申します。明治33年の春、県内第4中として開校、111年の歴史と伝統を誇り約2万名もの卒業生を送り出し日本社会でも有名な偉人が多数出でられる我等の川辺高等学校、あまりにもその責任の重さを感じ幾度となくお断り致しました。が、多くの方々より、皆で一緒に取り組んでいこうとのことで、お引受け致しました。カリスマ性があり、実力抜群の歴代会長とは比較になりませぬが、お引受け致しました以上、

微力ではありますが皆様の絶大なるお力をいただきながら川辺高校発展の為に全力を傾ける覚悟でございますので、どうかよろしくお祈り申し上げます。

川辺高校の現状を申しますと、平成24年度入学希望の発表が8月10日にございました。少子化の影響もありませんが4クラスの募集に対し3クラスにも満たない希望者数と大変厳しい状況でありました。同窓会・PTA・教職員・行政等関係者で全力をあげ今年度を乗りきってまいります。また、同時に魅力ある川辺高校にしていく為には、どのような手段をとれば良いのか、良いと思うことは一つ一つ着実に実行してまいりたいと思ひます。

最後に東京同窓会が鯨坂会長を中心に更なる発展をし、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げますと共に、母校に対し皆様の益々のご指導ご協力を宜しくお祈り申し上げます。



「絆と共に」

校長 宮園 秀昭

東京同窓会会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、卒業生への記念品贈呈をはじめとした物心両面からのご支援・ご協力に対し深く感謝申し上げます。併せて、昨年度の本校創立百十周年記念事業では、募金活動や記念式典等、皆様方のご支援のもと成功裏に終えることができました。ことに改めてお礼申し上げます。

ところで、6月開催の第35回東京同窓会総会ではご招待いただき、本当にありがとうございます。再度の母校勤務で、3年ぶりに陵寿会の方々にもお会いできたことの縁に感謝、また、高校時代の同級生が駆けつけて激励してくれたことも同窓生ならではの「絆」だと、有り難く思うことでした。

冒頭の「絆と共に」は今年の神戈陵祭(文化祭・体育祭)のテーマでしたが、この言葉は東日本大震災以来特に目にし耳にするようになりました。今年の創立記念講演会で

も、昭和41年卒の寺師慶志(鹿児島同窓会)様が「絆」というテーマで講演、最後に同窓生の「絆」について触れ、講演を結ばれました。同じ学舎で苦楽を共にした者同士の、若かりしときの思い出話や今の母校の様子といった話題は、やはり神戈陵魂で結ばれた同窓生ならではのものではないでしょうか。今後とも機会あるごとに、川辺高校同窓会会員の「絆」の結び付き、そして、その「絆」を受けつぎ発展させることの大切さなど、生徒たちに語り伝えていきたいと思えます。

最後に、校訓の具現化と文武両道を目指し母校のために誠心誠意努めて参りますので、今後ともご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。東京同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



なぎなたに携わって六十年

恩師 黒川 久子

この度、東京同窓会総会にお招き頂き厚くお礼申し上げます。当日、なぎなた演武とのご要望を承り大変有り難く思いました。今年5月開催された京都武徳殿演武大会で直心影流薙刀術を教え子の大橋さんと組み、出演した時の流儀の形三本、短刀一本を披露した次第です。

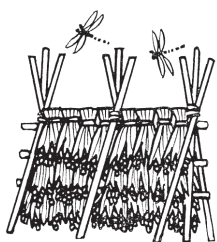
私となぎなたの出会い、昭和18年奄美高女卒業間際に校長先生から「女学校に来年から薙刀が正課になるとの文部省通達があった。あなたは薙刀を一年間修業して母校の教員になってくれないか。」とのことで、

急遽東京の直心影流薙刀教員養成所修徳館に入所し、なぎなたの稽古を始めました。第十五代宗家園部秀雄先生は、明治・大正・昭和の女流剣豪と謳われた心・技・体ともに武道の極意を究めた方で稽古は厳しく激しいものでしたが、先生の技と裂帛れっぱくの気合は私の脳裏にしみ込んでいます。寝食をともした寮生活は、炊事・洗濯・掃除など日常生活の心得、

女性としての凛とした立ち振舞すべてにわたり温情あふれるご指導をいただきました。私はこの一年間の修業を今に至る心の糧にしています。

川辺高校の講師として昭和40年から平成7年までその他、母校・鳳凰高校・鹿屋体育大学と浅学非才ながら学校教育の場でなぎなた指導をさせていただきます。また、人と人の絆は宝物です。

昭和30年、各流派が一つになり、全日本なぎなた連盟が結成されました。全国、世界に新しいなぎなたが普及しています。なぎなたの修練により仁・義・礼の徳を絶やさないと、青少年の育成に努めてまいります。



特別講演



「生けるを支える」

昭和51年卒 下之蘭 ルリ子

今年、3月11日、東北・関東において、予測をはるかに超した想像を絶する大惨事が起きてしまいました。ここにいらつしやる皆様のご親戚や知人の方々におかれましては被害にあわれた方が多くいらつしやることと思います。心よりお見舞い申し上げます。

私は、平成7年1月17日、阪神・淡路大震災が発生したとき、医療班として翌日、神戸へ向かい医療活動を行いました。講演では、その時の経験をお話しできるかなと思っていました。ところが、今回の東北・関東大地震は、日がたてば経つほど被害状況は悲惨な状況であり、神戸の被災とは大きく異なり津波という三次災害が加わってこれまで見聞きしたことのない惨状になっているなか、安易に震災の話について話せる状況ではない事を強く感じました。

ただ、いずれも共通して言えることは、平穏な日々を過ごしていた人々が突然、予期せぬ大きな事故や事件などに遭遇した直後の人々の心理状態は、誰もが同じように無の状態に置かれます。いったい何が起きたのか取り乱すこともなく、取り急ぎ危険な場所から遠ざかり安全な場所を求めようとします。そして、しばらくしてから徐々に何が起きたのかを感じとっていきます。その時からどうしようもない不安、怒り、悲しみが急激に増してきます。

でも私たち人間の偉いところは、いつまでも悲しみに暮れていないという事です。常に私たちは、生きようとしています。生きる力を本来備えている動物なのです。今回の震災による津波でお父さんを亡くしたという小学生の男の子は「大きくなったらお父さんみたいな漁師になりた

い」、大人の人でも「この場所にまた、家を建てて住みたい」と津波によって家や船など何もかも流され瓦礫と化されている情景の中、海を眺めて話していた被災地の人々の言葉が印象に残っています。私はとても切なく涙があふれて止まりませんでした。今またその状況を思い出すだけで胸がつまりそうになります。

まさにこのことは、突然癌を宣告され、つらい抗がん剤治療に立ち向かって一生懸命に生きようとしている姿にもどこか通じるのを感じます。病気の治療 (cure) は医師が行い、健康を取り戻すための援助・ケア (care) は、看護する者の役割であるとしてフロレンス・ナイチンゲールは以下のように提唱しています。

「看護とは、健康を回復し、または保持し、病気や傷を予防し、またそ

れを癒そうとする自然の働きに対して、できる限り条件の満たされた最良の状態に私たち人間を置くことである。」「看護とは、患者が生きるのを助けることである。」震災で健康な生活を失った人達はまさに病気を持つ人と同じ状態です。私たち看護する者は、健康な生活を失った人たちに対して、もともと兼ね備えている本人の回復しようとする力 (自然治癒力) を十分発揮できるように援助し続けることが重要だということです。これからはずすと。



本田雄郎前会長を偲んで



初めがあれば必ず終わりがありません。私も昭和一桁の後半に生を享けたものたちは、戦前派にも戦後派にも明確に区分しがたい世代に属しています。最後の旧制中学に入学した仲間は海外からの引き揚げ者の子弟や戦時中の都会からの疎開者を含めて多士済々、個性豊かな元氣者が多く活気がありました。台湾から引き揚げてきた勝目出身の本田雄郎はなかでもひととき大きな体格と日本人離れした容貌で、いつも仲間の最先端を走り通した印象が強く残っています。在学中はバスケットの選手として内外の対抗戦で活躍し、演劇部の名優としても関係者の注目を浴びていました。

昭和27年に中高6年間の学業を終えて、更なる学業を続けるには引揚者の子弟では並々ならぬ経済的な苦勞があった時期に、彼は実務的な職業を身につける大学を選んで早々と社会にでました。三井銀行鹿兒島支店長を花道にして、福岡の段谷産業

の副社長まで勤め上げ、その後は数々の社会貢献事業に身を挺し、ひと時も心身を休めるときを持たなかったように思います。その経歴のすべてを列挙するには紙数が足りません。衆望に応えて母校の東京同窓会会長に就任。4年にわたって郷里の母校と在京の卒業生をつなぐことに情熱を燃やしたのが、彼の功績の最後となりました。

この間彼は自らの内臓を蝕んできた長年の疾病について、親しかった多くの友人たちにも弱音をもらすことがありませんでした。彼自身にとっては覚悟の死であったのかもしれない。享年78歳、平成23年の早春、漸く梅の花が関東一円の花々につけはじめた頃、彼は静かにあちらの世界に移っていききました。見事な一生でありました。

昭和27年卒 中禮俊則

畏友大倉野貞俊氏を偲ぶ



旧制中学入学以来の長い付き合いだった。穴掘り動員に明け暮れた戦時中の想い出を挙げれば出身地に因む「ダッケイ」というあだ名だろう。とにかく威勢のいいやんちゃ坊主というイメージが強い。高校時代は弁論部や生徒会で大活躍していた人気の彼と特に親しかった訳ではない。個人的な繋がり初めは卒業一年後の上京時だったと思う。それぞれの事情で大学受験を一年見送るようになった仲間4人、当時2本しかなかった急行列車で32時間、まさに青雲の志を抱いての上京だった。間もなく烏山の岩崎寮に共に一期生として入寮し、同じ釜の飯を食うことになる。やがて横浜国大を卒業した彼は読売新聞に入社する。以来、在京同期生の集まりで付き合いがさらに深まる。東京同窓会では白石先輩の後を受け陵寿会のもとめ役として献身したことが特筆されよう。

数多い想い出の中で卒業25周年記念文集「南薩の青い空の下に」を共

に編集した想い出が鮮烈だ。発起人でもあった彼ももちろん一文を寄せた。それは戦後間もなく結核で亡くなった長兄の想い出を綴ったもので、高価だったペニシリンが買えないばかりに助かるはずの命を失った無念の思いにあふれていた。普段の彼からは想像もできないその一文を、4人の仲間の一人だった石踊浩一さんが絶賛した。その悔しさと無常観が読売退社後の四国お遍路に駆り立てたと思う。ついに彼は3年ばかりで八十八か所を踏破する。それだけでも真似出来ない快拳なのに彼はその記録を上梓した。念願を果たして四国を離れるシーンの描写に打たれる。昔のやんちゃ坊主の面影はもはやそこにはない。

ひたむきな行動力にあふれた好漢。もっと生きて欲しかったと切に思う。合掌。

昭和25年卒 篠田徹男

陵友だより

大船でミニ俳句会

昭和25年卒 吉見 晃 武



大船駅前の居酒屋「風来坊」を会場に昨年9月に川辺同窓生を主体に五名で風来坊句会を立ち上げました。メンバーは前橋竹之さん(25年卒)大平政弘さん(34年卒)上之温代さん(38年卒)吉見(25年卒)と横浜在住で友人の薩摩大使の田嶋洲二さんです。前橋さんは川辺中一年からの親友、大平さんは高校同窓会・同郷会・興南会でお世話になり飲み友達でもあります。

大平さんとお付き合いの中で俳句を勉強したいというご要望があり、相談の結果、句会は大平さんの行きつけの風来坊の名を借り風来坊句会に決めました。大平さんの熱心さにご協力でこの句会はできたものと喜んでいきます。

大平さんと上之さんは俳句作りは初めてですが、上達ぶりは抜群ですし、将来が楽しみです。川辺高校同

窓生で俳句に興味を持たれる方は私達の俳句会にお声をお掛け下さい。最後に風来坊の女将さんは川辺高校同窓生です。気楽に飲めて楽しいところです。

古稀の同級会に参加して

昭和34年卒 高崎 強

紀元2600年辰年生まれの私は昨年の2010年11月に満70歳、すなわち、「人生七十古来稀なり」の古稀を迎えてしまいました。実に長生きしたもんだの心境です。実に最終戦で台湾から引き揚げた私は、



勝目小、勝目中、川辺高校を「かんめ」で暮らしたわずか12年間が懐かしく思い出されます。

同級生には已年生まれもいますので、高校の同級会の名称は辰巳会です。昨年11月に最後の辰巳会が指宿でありました。なんと元気な前期高齢者が70名以上も集まりました。その宴会の時、激しい踊りの「かっぱれ」を軽々こなした2人のお嬢の舞いっぷりにはひったまがりました。

今生の別れをした翌日、中学の修学旅行以来の桜島へフェリーで渡り、半額でいいよの観光タクシーに誘われての半島めぐり。火山灰で埋まった鳥居を実に55年ぶりに拝めました。噴火口が見える展望台に着いた途端ドーンと大音響がし、噴煙が700m以上も舞い上がる醍醐味を間近で堪能出来ました。

最後に一言、長生きはするもんですネエ。

不屈が神戈陵精神?

昭和36年卒 宇都 陸 海

高校を卒業して50年、未だに神戈陵精神とは? の定義も解らず、不明である。

ただ前身の第四中学からの「伝統



と誇り」を意識した高校時代を過ごしたのは確かである。成績別クラス編成、成績優先の部活許可制、フォーカダンス実施に反対する先生等など、差別の権化の様な風土に、勝ち負けの姿勢が醸成された。又、ちよい悪で過ごした私には度胸も備わる思い出の多い青春だった。

富士電機在籍中に、黎明期のコンピュータに接し、システム化で会社の経営を学び、IBMや富士通との接点も出来、51年(33歳)にソフトウェア技術者の育成を目的に会社を起業した。紆余曲折問題山積を何とか乗り越えて、最盛期は170人体制まで規模も拡大、今は元社員の人会社に引き継いでいる。

更に昨年は、悪性リンパ腫を発症、

年末には大腸がんも見つかり開腹手術で摘出、今はリンパ腫も完解し元気に過ごせている。同窓の仲間に見舞われ神戈陵精神への刺激のお陰と
思っている。

思い起こせば、「不屈と誇りの精神」こそ、神戈陵精神ではないでしょうか。

私は学び舎の精神が、決して諦めない人生を築いてくれて、幸せだったと思っている。

昭和43年卒 佛 渕 健 悟



6月の川辺高校東京同窓会に初めて参加してみました。

それから何日かして、世話役さんから高田馬場の「薩摩の里」で反省会があるからと声をかけられ出かけましたら、ただの飲み会と思っただけの私の早とちりで、先輩幹事さん方の真面目な反省会に飛び込んでしまっていました。それでも、東京での川辺高校同窓会をどうやって盛り上げるか、若い人たちにもっと参加して貰えるようにするには何が必要か、といった話合いをそばで聞いて

いますと、真剣さの中にも鹿児島弁のほのぼのとした雰囲気があつて、久しぶりの鹿児島流に心なごみました。

高校の同窓会は小学校や中学校のそれと違い、どことなく窮屈でつい敬遠してしまうというようなことを聞きますが、しかし思い切つて出てみますと、案外それは思いこみであつたと気付かされます。癒しと同時に生き方の指針を得るようなことも大いにあるように感じました。さてその後の懇親会では、皆さん、「焼酎」の題の俳句作りにも興じました。焼酎に青春時代の血が躍る 巨英 焼酎の宴は尽きぬ国なまり 直子

講演会を聞いて

昭和51年卒 石 井 真 弓

今回は同級生の下之菌ルリ子さんによる講演で「生けるを支える」というテーマでした。私事ですが、昨年義父の自宅介護をしていたこともあり、興味深く聞きました。

リンゴの写真を患者さんに例え、見えているところだけで健康だとは判断できない、裏側や内面もよく観察することが大切だという事。勿論相手の身になって介護するのは当た



り前の事ですが、がんばりすぎると疲れ、些細なことも見逃してしまうという事。

講演の中で「寄り添って支える」という言葉を聞き、優しい気持ちになり、寄り添う事で無理なくゆつたりとした介護ができるようになるのではと感じました。

講演の最後には、雑菌から身を守るための手洗いの仕方を、歌に合わせて楽しく教えていただきました。

今回の同窓会は、震災の影響で役員や年度幹事の皆様方には、大変だったと思います。ありがとうございました。

環境革命の シナリー化粧品

「石油からつくられる 化学合成物質を原料にしない」製品づくりです

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-20-17 シナリーモード営業所 TEL 03-3761-7816 FAX 03-3761-6598 石 山 道 (昭和28年卒)

京浜東北線JR大森駅下車北口を右のエスカレーターを降りて徒歩5分。お気軽にお電話下さい。

先輩、後輩のみなさん高田馬場の

郷土料理+「薩摩の里」にぜひ

おじゃったもんせ!!

新宿区高田馬場4-18-10-2F TEL 03(3363)3258 FAX 03(3350)1483 予約 40名様可能 営業時間 午後5時より午前1時まで 定休日 第1・第3日曜日 高田馬場駅徒歩5分 店主 山下由人(知覧出身、S48年卒)

知的創造

何を創るかはおまかせします どのように造るかをお手伝いします

企画編集から製本まで 自費出版を応援します!! カラー名刺・絵ハガキ 小部数でも安価でできますご相談下さい

Eishin 株式会社 盈進社 代表取締役社長 下園典子(金峰町出身) 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-2 三信ビル TEL 03-3262-3471代 FAX 03-5210-7226 URL: www.eishinsya.co.jp Eメール: info@eishinsya.co.jp

担当年度幹事から

昭和43年卒

権原和幸

還暦も過ぎ、40年間の仕事ともピリオドを打ちました。現職時代から植物に興味を持ち、樹木医の資格を取り、今それを生かし、家庭菜園、庭木いじり、菊づくりなどしながらのんびりと過ごしています。時には趣味のゴルフと孫達とのふれあいを楽しみながら…。

さて、今回の東京同窓会では年度幹事として、総合司会の大役を任ざれてしまいました。役員の方々、仲間の協力もあり無事？ に務め終えることが出来ました。事前の打合せから参加し、改めて役員の皆様方の日頃からの計画的なご尽力で東京同窓会が毎年開催できるのだと感じました。会当日、諸先輩、同窓の仲間が元気に輝いている姿に会え、又貴重な経験をさせていただき感謝しています。ありがとうございました。

高田和明

これから日本はどこへ向かおうとしているのか？「グローバル化された経済」が痛く身に沁みている。デフォルトは回避したが先行き不透明な米国経済、ギリシャの国家財政破綻を機にユーロ圏の経済低調等、遠い一国・一地域の出来事が世界を混乱させている。国内では震災復興の遅延、原発事故処理の曖昧等、政治信頼は完全に失墜した。敬愛できる政治家は皆無である。「ひと」は一人では生きて行けない。ベースは「愛する家族、恩師、親愛なる友人、同僚、先輩・後輩等」の存在である。正に「川高同窓会」は、強く・優しく生きる為の機会を与えてくれる場所・時間でもある。感謝!!

木場田文夫

若い頃は、同窓会の類には殆ど興味が無かったのに、年を取ったせいか、退職して暇になったせいか、同郷の昔馴染みにも会いたくなります。昨年は還暦同窓会、今年担当幹事で東京同窓会に出席しました。中には卒業以来、42年振りの再会もあり、

これ迄のそれぞれの人生を語り合っているうちに、アツという間に時間は過ぎていきました。皆様、楽しい時間を有難うございました。

参納和子

担当年度幹事にあたり『関東さま川辺会』で逢った、薙刀指導をしている大橋さんへ、薙刀のお願いをしたところ「黒川先生を見て欲しい、黒川先生の薙刀を見て欲しい」と黒川先生を推薦して頂き、今回の薙刀演武が実現しました。師弟愛の強い絆も感じ感動しました。

川野重任先生の教え「同窓会は、時間の有る人は汗を出して、知恵の有る人は知恵を出して、お金の有る人はお金を出し合って行なえば良い」が受け継がれ、これからも東京同窓会が発展するよう願っています。

中田スミ子

東京の同級生より、今年の東京同窓会は43年卒が年度幹事なので出席が多いと連絡を受け、初めて出席しました。卒業以来の再会の方も多く、40数年の時の流れを感じる事も無く、

高校時代にタイムスリップしました。本当に楽しい時を過ごさせていただき役員の皆様有難うございました。上京する前日まではずっと体調が悪かったのですが、皆さんにお目にかかり、モチベーションが上がり元気が出ました。今回皆さんにお会いできて本当に良かったです。以前とお変わりなく、又お目にかかれる日を楽しみにしております。



43年年度幹事

創立110周年記念事業の報告

平成22年11月13日午前8時30分から、亡師亡友慰霊祭が神戈陵に建立されている「亡師亡友の碑」において、厳かにとり行われました。

続いて母校体育館において来賓・同窓生・在校生徒等総勢750名の出席者により記念式典が盛大に開催されました。東京同窓会会員も鮎坂悟郎会長を先頭に約30名が母校に馳せ参じました。校歌合唱では、音楽部吹奏楽団の演奏に合わせ旧制中学



亡師亡友の碑

校・高等学校に続き、今まで聞いたことのなかった旧制高等女学校の校歌を音楽部の三年生及び同窓生に歌っていただきました。

記念講演会では、有馬勉氏（元県教育委員会教育次長43年卒）が、「本物を追い求めて「凡事徹底」というテーマで①絆②裾野を広く（高い山を築くためには広い裾野が必要）③凡事一流（一流の努力をして本物を追求してほしい）④思いやり、の



記念式典

鹿児島県立川辺高等学校創立110周年記念事業募金状況 平成23年1月25日

番号	地区支部名	男子		女子		合計	
		延べ件数	募金額	延べ件数	募金額	延べ件数	募金額
1	東京同窓会	226	3,113,804	173	1,184,000	399	4,297,804
2	東海同窓会	15	194,000	10	51,000	25	245,000
3	関西同窓会	72	771,000	54	228,000	126	999,000
4	福岡同窓会	41	1,750,000	26	121,000	67	1,871,000
5	熊本同窓会	15	169,000	13	69,000	28	238,000
6	宮崎同窓会	17	468,000	9	37,000	26	505,000
7	鹿児島同窓会	171	1,549,000	93	422,000	264	1,971,000
8	川辺同窓会	388	4,394,250	424	1,442,750	812	5,837,000
9	南さつま	42	559,000	15	59,000	57	618,000
10	知覧・穎娃	92	450,500	44	201,500	136	652,000
11	枕崎・坊津	13	139,000	6	42,000	19	181,000
12	県内	19	133,000	7	28,000	26	161,000
13	同窓会(同期会)	6	121,254	5	116,403	11	237,657
14	川辺高校職員	42	401,000	19	162,000	61	563,000
15	協力者(業者)	9	126,000	0	0	9	126,000
16	全国	6	31,000	6	62,000	12	93,000
17	預金利子						715
	合計	1,174	14,369,808	904	4,225,653	2,078	18,596,176

四つを「ごめん 届かなかった手紙」の本の内容やマラソン選手の高橋尚子さん、近江商人の商売における「三方よし」、のお話等を交えてより分かりやすく講話していただきました。

記念祝賀会は、川辺町両添の「ひろせ」において開催され、今年の東京同窓会でも見せてくださった黒川久子先生が上野千代子氏（59年卒）となぎなた舞を披露してくださいました。

昭和46年卒 峯元政公



記念祝賀会にて

母校だより

生徒会活動

メダカの放流式

平成23年7月20日に神殿小学校の生徒11名とともに総勢20名で約20匹のメダカの放流を行いました。



このメダカは、平成17年1月に川辺町神殿で南薩縦貫道路建設地の池に生息していたクロメダカを神殿小学校の生徒とともに保護し、6年間育ててきたきたもので、工事が完成したことから元の地の代替水路に返したものです。
生徒の感想…放流時ちよっぴり寂しかったですが自然の中で元気で育ってほしいと思いました。



22年度大学合格者数

国立大学	16
北海道教育大学	1
山口大学	1
熊本大学	1
宮崎大学	2
鹿児島大学	9
琉球大学	2
公立大学	10
都留文科大学	2
下関市立大学	1
山口県立大学	1
高知工科大学	1
長崎県立大学	1
宮崎公立大学	1
名桜大学	3
公立短期大学	5
私立大学	61
私立短大	34
専門学校	40
文部科学省所管外	2
公務員等	4
計	172名

役員名	前	年次
会長	鯉坂悟郎	32
副会長	辰元房子	32
幹事	石山雅和	28
兼任幹事	中田勝之	56
事務局長	中田信也	55
副事務局長	内村昭也	50
顧問	白川幹三	19
顧問	川口明洋	49
顧問	岡本伊津子	43
幹事	岡本伊津子	38
会計	小原東洋明	38
監事	松元将潔	16
監事	渡邊淳子	52
監事	中内幸男	50
監事	内原健一	48
監事	川平悦郎	47
監事	木村公紀	39
監事	松山満芳	37
監事	川野博一	37
監事	荒野孝洋	37
監事	大渡義剛	36
監事	大坪格一	32
監事	辰野又一郎	30
監事	上村道和	29
監事	石山雅和	28
監事	辰元勝之	28
監事	田中勝之	56
監事	樋原信也	55
監事	中田信也	52
監事	林昭也	50
監事	内村昭也	50
監事	椎原直子	48
監事	中田信也	44
監事	中田信也	46
監事	峯元政公	46
監事	峯元政公	46
監事	川村敦代	36
監事	南谷英弘	36
監事	大平政弘	34
監事	足立美美子	33
監事	辰元房子	32
監事	鯉坂悟郎	32

厚生労働省認可労働保険事務組合
東京都労働保険協会
全日本社会保険労務士法人

会長 荒殿忠洋 (S37年度卒)

〒101-0061
東京都千代田区三崎町2-4-1 8F
TEL03-3222-4111 FAX03-3230-1733
URL <http://www.01166.com/>

関東さつま川辺会

第22回総会は、平成24年2月19日(日) 12:00よりホテルメトロポリタンエンドモント(千代田区飯田橋)で開催致します。川辺出身の方に限らず、ご縁のある方々のご参加をお待ちしております。

会長 川野博一
(川辺高昭和37年卒)

連絡先 三鷹市中原3-8-30
事務局 吉留浩一 (0422-26-7065)

がん検診・胃腸科・内科・外科・皮フ科

湘南長沢医院

○診療時間：AM9:00~12:00 PM3:00~7:00
○休診日：水曜・祭日・日曜午後
院長 鯉坂秀明 (昭和28年卒)

横須賀市グリーンハイツ3-8 (京浜急行長沢駅前)

TEL046(849)4114

◆事務局からのお知らせ◆

『会報誌「神戈陵」の送付について』
当会の収支状況は年々困窮の度を増しており、早急な対策が求められています。
つきましては、来年度より平成21年～23年の3年間で年会費の納入が無い会員様(ただしこの期間総会に出席した方は、年会費は総会費に含まれています。)には会報誌の送付を割愛させていただきますたくご案内いたします。

平成22年度 会務報告

22年4月10日 評議員会(東京しごとセンターにて)出席者:43名
議題
1. 第34回総会・懇親会について
2. 会務報告について
3. 会計報告について
4. 創立110周年記念事業募金について
第34回総会・懇親会案内状の発送作業(東京しごとセンターにて)

5月15日 事務局総会1カ月前の打ち合わせ(同窓会事務局にて)
6月12日 事務局総会1週間前の打ち合わせ(同窓会事務局にて)
6月18日 本部同窓会・母校との交流会(九段会館にて)
6月19日 第34回総会・懇親会を開催(九段会館にて)
7月3日 役員会(郷土料理 薩摩の里にて)
議題
1. 34回総会について
2. 35回総会について
3. 会報誌「神戈陵34号」について

編集等協議
懇親会(本年度、来年度担当幹事、役員(郷土料理 薩摩の里にて)
8月5日 会報誌「神戈陵34号」の原稿及び広告依頼文の発送
9月18日 東京加世田会総会へ峯元副会長出席
9月～10月 会報誌「神戈陵34号」の校正(同窓会事務局にて)
10月3日 関東知覧会総会へ嶋坂会長出席
10月9日 幹事会(同窓会事務局にて)
10月24日 評議員会(東京しごとセ

ンターにて)出席者:37名
議題
1. 第35回総会・懇親会について
2. 創立110周年記念事業について
3. 母校の活性化対策意見交換会報誌「神戈陵34号」の発送(東京しごとセンターにて)
23年2月5日 南さつま市関東ふるさと会総会へ嶋坂会長出席
2月12日 関東さつま川辺会総会へ大平副会長出席
2月25日 母校卒業生に記念品(ボールペン)を贈呈

平成22年度卒業年次別年会費入金者数一覧表(平成19年卒以降を除く)

Table with 12 columns: 年次, 会員数, 入金者数, 入金率(%), 年次, 会員数, 入金者数, 入金率(%), 年次, 会員数, 入金者数, 入金率(%). Rows include 20前, 20後, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 合計.

平成22年度 川辺高等学校東京同窓会 会計報告

自:平成22年4月1日 至:平成23年3月31日

Table with 4 columns: 収入の部, 金額, 支出の部, 金額. Rows include 総会会費収入, 年会費収入, 会報誌広告収入, 記念誌販売収入, 寄付金, 各地区同窓会支援金, 郵便貯金利息, 特別会計からの前期繰越金, 前期繰越金, 合計.

出席者総数 202名
内訳(会員男性 96名、会員女性 83名、学生 7名、会員外 4名、来賓者 12名)

上記の件、監査の結果相違ありません。

平成 23 年 6 月 11 日 会計監事 南 谷 亘 英

小原 東洋 明

編集後記

東日本大地震による津波、福島第一原発による放射能汚染、台風15号被災と今年は大自らの脅威をいやというほど味わった年でした。一方、なでしこジャパンによる女子ワールドサッカー優勝は日本人に勇気と希望を与えてくれました。

当会の会報誌も52年に発行して以来35号となり、会員の皆様方の多大なご協力のたまものと感謝しております。今後も母校の活動や会員の情報をお伝えできればと思っておりますのでよろしくお願ひします。峯元(46年卒)編集者 小原(38年卒)・島海(38年卒)・中蘭(44年卒)・椎原(48年卒)・林(50年卒)・中原(52年卒)・樋渡(55年卒)・田中(56年卒)